JSPS BONN OFFICE
日本学術振興会ボン研究連絡センター

ニュースレター　2014 年 10 月～12 月　(ぼんぼん時計 No.46)

ピックアップニュース

①学術のための 3 大協定継続に合意
②教育予算が増加、全予算の 20%が教育関連へ
③宇宙空間探査機ロゼッタのミッション成功

その他のニュース

トピックス　イベント報告

① 渡日プログラム説明会 "Research and Study in Japan"を開催
② 同窓会イベント「会員による会員の招待」を開催
③ ジュニアフォーラムを開催

今後のイベント

センター長コラム

センターからのご案内

ピックアップニュース

学術のための 3 大協定継続に合意

共同学術会議（Gemeinsame Wissenschaftskonferenz：GWK)の提言により、ドイツ連邦首相と州政府首脳陣は、学術のための 3 大協定である「高等教育協定 2020」、「研究・イノベーション協定」、及び「エクセレンス・イニシアティブ」の継続に合意した。

高等教育協定 2020 により、連邦と州は大学新入生の増加に対応し、大学新入生の定員枠を 2020 年までに、2005 年の水準よりもさらに 76 万人分拡大する意向である。

研究・イノベーション協定は国際競争力を強化するための研究政策目標であり、ドイツ研究振興協会（DFG）や 4 大研究機関も含んでいる。次のフェーズとなる 2016 年から 2020 年に見込まれる予算の増加は連邦政府が負担することとなっている。

ドイツの学術システムに大きな変化をもたらしているエクセレンス・イニシアティブについては、現フェーズが終了する 2017 年以降も、連邦と州政府の協力によって最先端研究への支援が続けられる予定である。

BMBF　http://www.bmbf.de/press/3703.php (11 Dec. 2014)

教育予算が増加、全予算の 20%が教育関連へ

連邦統計局が発表した教育財務報告によると、2014 年の連邦・州・市町村の教育にかかる予算は 1 億 2 千万ユーロ以上に達した。2008 年に、国内総生産の 10%を教育に投資するという目標が取り決められて以降、公的教育費は 30%上昇している。特に、連邦政府による教育分野の負担はここ数年増加しており、2014 年は 820 億ユーロと 2008 年の 60%強の増額となっている。連邦及び地方公共団体の予算総額に対する教育費の比重は上昇しており、2014 年には初めて 20%以上に達する見込みである。

詳細データはこちら（ドイツ語）http://www.destatis.de/

BMBF: http://www.bmbf.de/press/3701.php　(11. Dec. 2014)

宇宙空間探査機ロゼッタのミッション成功

欧州宇宙機関（ESA）の宇宙空間探査機ロゼッタに搭載された着陸機フィラエによる、チュリュモフ・ゲラシメンコ彗星への着陸の報告を受けて、連邦教育研究省（BMBF）ヴァンカ大臣は祝辞を述べた。これは人間が開発した飛行物体の彗星への初着陸であり、宇宙航空の分野における最も偉大な貢献のひとつだと評価されている。

ESA によると、探査機内には合計 21 個の器具が装備されている。ドイツからは、BMBF が州政府と共同支援しているゲッティンゲンのマックス・プランク太陽系研究所とヘルムホルツ協会所属のドイツ航空宇宙センター(DLR)が参加している。

BMBF: http://www.bmbf.de/de/25213.php (13 Nov. 2014)

その他のニュース

連邦教育研究省が「国際協力活動プラン」を発表

連邦教育研究省は 10 月 2 日、省として初めて学術と研究における国際活動計画を提示した。この「国際協力活動プラン」では、学術分野の今後数年の国際連携の見通しも示されている。

ドイツでは、学術刊行物のほぼ半数が研究者の国際協力により著述されたものである。また助成によりドイツに滞在したことのある外国人研究者の数は 2002 年以降上昇し続け、3 万人以上に上っている。

連邦教育研究省は、今回提示したプランに基づき、教育、学術、研究および技術革新の国際連携をさらに強化する意向である。

BMBF: http://www.bmbf.de/press/3663.php (2 Oct. 2014)

DAAD が外国人留学生のためのウェブサイトを改訂

ドイツ学術交流会（DAAD）が外国人学生及び留学希望者に、ドイツ留学とドイツの生活についての情報を提供するためのウェブサイト"Study in Germany – Land of Ideas"を改訂した。このウェブサイトでは、ドイツの各大学で提供されている学科、学部の概要を閲覧することができ、具体的な学科、学部を探す学生にとっても、詳しい情報を得ることができるサイトとなっている。

DAAD "Study in Germany – Land of Ideas": https://www.study-in.de

DAAD: https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/31299-daad-webseite-bietet-auslaendischen-studierenden-tipps-fuer-uni-und-alltag/ (2 Oct. 2014)

シュテファン・ヘル氏がノーベル化学賞を受賞

ゲッティンゲンのマックス・プランク生物物理化学研究所及びハイデルベルクのドイツ癌研究センターに所属するシュテファン・ヘル氏が、高解像度顕微鏡技術に関する功績により 2014 年ノーベル化学賞を受賞した。

ドイツ研究振興協会（DFG）シュトローシュナイダー会長は、ヘル氏が 2008 年に DFG のライプニッツ賞を受賞し、現在 DFG のエクセレントクラスターの予算配分を受けている研究所で働いていることに触れ、「このような卓越した知識主導型の研究を開花させる仕組みとして、大学及び大学以外の研究機関双方のトップレベルの研究に資金を配分することが、効果的であることを示すものである。」と語った。

授賞式は、ストックホルムにて 12 月 10 日に行われる。

DFG: http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2014/press_release_no_41/ (8 Oct. 2014)

エクセレンス・イニシアティブの中間評価のための大規模会議を開催

ドイツ研究振興協会（DFG）とドイツ学術審議会（WR）の主催により、100 以上に及ぶ機関代表者が集まり、2006 年から始まったエクセレンス・イニシアティブ及び 2012 年に始まった二回目の助成制度の中間結果がまとめられた。「エクセレンス・イニシアティブ－そして今後」というテーマに加えて、ドイツの大学における先端研究の競争力の持続的な強化と今後の見通しについて意見を交わした。

全体討論とワークショップで合意された結論は以下のとおりである。エクセレンス・イニシアティブはドイツの学術システムに多様なインパクトを与えた。ドイツの大学は、先端研究の拠点及び技術改革の発信地として、国際的にも存在感を現わしている。この成果を引き継ぐためには連邦と州が協力し、本プログラムが 2017 年 10 月に終了した後も、大学の先端研究に対する資金援助をすることが重要である。

DFG: http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2014/pressemitteilung_nr_42/ (10 Oct. 2014)

第 12 回学生調査結果の公表

連邦教育研究省（BMBF）による第 12 回学生調査結果が公表された。

本調査は 1982 年から 3 年ごとに実施されており、今回は 2012－2013 年の冬期に 25 の大学において 5,000 人の学生を対象に行われ、調査内容は学習から生活まで多岐に渡っている。

調査によると多くの学生は、早く卒業することよりも良い成績で卒業することが、重要だと考えている。学生の週平均学習時間は 33 時間で、学業へのプレッシャーは強くなっているが、それと同時に大学の構造改革の効果も読み取ることができる。また、教育の質、国際化、学科のモジュール化といったボローニャ改革の目標については、学生から肯定的な評価を得ている。

大学のコースやカリキュラムへの評価は、2001 年の 54%と比較して、67%の学生が肯定的である。また、大学の講義やゼミ内容についても、2001 年の 46%に対し、65%が良いと評価している。

第 12 回学生調査結果の詳細（ドイツ語）http://www.bmbf.de/de/25012.php

BMBF: http://www.bmbf.de/press/3675.php (28 Oct. 2014)

ドイツの留学状況、派遣・受け入れの増加

米国国際教育研究所（IIE）による今年発行の報告書「Open Doors」によると、2013/2014 年度（2013 年冬・2014 年夏学期）、ドイツへ留学をするアメリカ人学生数が 3.5%増加し、新記録を達成したことが明らかになった。ドイツ国内で、特に人気のある地域はベルリンである。それに対し、アメリカの大学を卒業しようとするドイツ人学生は減っている。その原因として、アメリカでの学費と生活費の上昇や、ヨーロッパ内の大学に魅力的な教育プログラムがあることが挙げられている。

また、連邦政府の年次調査によると、2012 年にドイツから海外に留学した学生数は、前年度比 2%増加となる、約 13 万 9 千人にのぼることが判明した。行き先として、オーストリア、オランダ、スイスそしてイギリスに人気が集まっている。また日本やトルコ、アイルランド、ポルトガルへのドイツ人学生数が急上昇している。なお、最新の卒業生アンケートによると、大学在学中に留学を経験した学生の割合は約 3 分の 1 に達し、連邦と州政府は引き続きその割合を上昇させることを目標としている。

DAAD: https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/31539-wissenschaftsaustausch-staerkt-transatlantische-beziehungen/ (20 Nov. 2014)
DAAD: https://www.daad.de/presse/pressemitteilungen/de/32116-immer-mehr-deutsche-studieren-im-ausland/ (5 Dec. 2014)

EU 新投資計画による、欧州の研究費削減の可能性

グローバルな経済金融危機の欧州における影響を克服するため、欧州委員会は、新たな投資プロジェクトを発表した。このプロジェクトは、情報、エネルギー、交通インフラ等に約 315 億ユーロを投資することを可能とするものである。

ドイツ学術機関連盟は、特に研究分野における追加のインフラ投資を歓迎している。しかしながら、欧州委員会の見解では、本予算の大部分は、ホライズン 2020 の予算から引き出すべきとしている。その場合、優れた基礎研究を支援する ERC の予算、若手研究者を支援するマリー・キュリー・アクションなどにも影響を及ぼす可能性がある。

ドイツ学術機関連盟の各機関は、本プロジェクト実施がホライズン 2020 の予算に影響を与えないよう要求している。

AvH: http://www.humboldt-foundation.de/web/3771595.html (8 Dec. 2014)

ニュースのバックグラウンド

エクセレンス・イニシアティブ

大学の優れた先端研究を促進し、研究拠点としてのドイツの国際競争力を高めるため、2005 年に創設された事業。連邦及び州政府双方が合意し、主な実施機関はドイツ研究振興協会(DFG)とドイツ学術審議会(WR)である。

第 1 フェーズ（2006-2011）は予算規模約 19 億ユーロで実施され、2012 年から第 2 フェーズとして、2017 年まで 27 億ユーロの予算が投じられる予定である。

本イニシアティブは、以下 3 つの柱から成っている。

1. Graduiertenschulen (Graduate schools): 若手研究者育成のため、各大学によって設立される大学院博士課程特別コース。2012 年 45 件選定
2. Exzellenzcluster (Clusters of excellence): 特に将来性のある研究分野での学術的なネットワークを推進する、先端研究クラスター。 2012 年 43 件選定
3. Zukunftskonzepte zum projektbezogenen Ausbau der universitären Spitzenforschung (Institutional strategies to promote top-level university research): 大学の学術的な国際競争力を機関全体として強化する、長期的な将来構想。 2012 年 11 校選定

トピックス　イベント報告

渡日プログラム説明会 “Research and Study in Japan”を開催

日時：2014 年 11 月 28 日（金）
場所：The University of Vienna, ウィーン、オーストリア

毎年 JSPS ボン研究連絡センターにより開催されてきた「渡日プログラム説明会」が、11 月 28 日にオーストリアのウィーン大学で開かれた。初めてのオーストリアでの開催となることから規模を拡大し、ウィーン大学の「日本デー」と組み合わせて日本での留学・研究プログラム紹介を行い、ウィーンの学生・研究者 40 名以上の参加者が訪れた。本イベント参加機関も過去例をみない数となり、日本から約 15 大学・機関がブースを設置し、参加者へ PR を行った。

プログラムはウィーン大学 Department of East Asian Studies の Mag. DDr. Holthus と小平ボンセンター長の挨拶から始まった。在オーストリア大使館とケルン日本文化会館による日本留学、研究の紹介を皮切りに、ボンセンターによる JSPS 各種プログラム紹介、またドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会から活動紹介が行われた。引き続いて自然科学研究機構（NINS）が日本の多彩な研究機関の状況を説明し、参加者の興味をひいていた。また、オーストリアからは学術振興機関であるオーストリア学術交流会（OeAD）とオーストリア科学財団（FWF）がそれぞれ助成事業等を紹介し、渡日への支援をアピールした。それに引き続き、各参加大学によるショートプレゼンセッションの場が設けられた。各大学から、学生交流プログラムや特色ある研究教育活動が紹介され、興味を持った聴衆がブースを訪れ詳細情報を求めていた。

プログラム後半ではウィーン大学による「日本デー（Japan Tag）」として、副学長である Prof. Dr. Fassmann, 国際部長 Dr. Mosrer らにより、地域・大学間の交流の重要性、ウィーン大学での外国人学生・研究者の交流状況についての紹介や、日本との学生・研究者交流プログラムの説明が行われた。

今回のイベントを機に、今後オーストリアを含むドイツ語圏と日本における各機関の交流が促進されることが期待される。

プログラム詳細はこちら 「渡日プログラム説明会」

イベント会場ブースでの情報提供

ボンセンターブースではお寿司の食玩技術も紹介

説明会オーディエンス

ウィーン大学副学長 Prof. Dr. Fassmann

同窓会イベント「会員による会員の招待」を開催

日時：2014 年 11 月 28 日（金）、29 日（土）
場所：The Austrian Academy of Sciences (Österreichischen Akademie der Wissenschaften, OeAW) ウィーン、オーストリア

ウィーンのオーストリア科学アカデミー(Austrian Academy of Sciences)にて、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会(German JSPS Club)主催の「会員のための会員の招待」が開催された。例年「渡日プログラム説明会」と同時期に開催しているもので、同窓会会員が他の同窓会会員や JSPS 元フェローを招待し、ネットワーク形成促進を図っている。第 10 回目を迎えた今年は、オーストリアにおける同窓会活動の充実を期待し、オーストリア科学アカデミー所属の同窓会員が招待会員となり、同アカデミーにて学術講演及び施設見学を行った。

Prof. Dr. Menkhaus 同窓会会長、川原在オーストリア大使館書記官、及び今回のホストである Prof. Dr. Widmann の挨拶によって講演会が始まった。各研究者による、日墺史や日本文化研究、日本建築学についての講演、さらに日本の研究所についての紹介も行われた。翌日はウィーン市内のオーストリア応用美術博物館（Austrian Museum of Applied Arts）にてガイドツアーが行われ、中世から現代に至るウィーンとアジアの美術工芸、デザイン技術をついての理解を深めた。

プログラム詳細はこちら「会員による会員の招待」

会員による会員の招待　参加者

Prof. Dr. Widmann

ジュニアフォーラムを開催

日時：2014 年 11 月 29 日（土）
場所：Palais Strudlhof, ウィーン、オーストリア

ウィーンにおいて、JSPS のサマープログラム及び外国人特別研究員として日本に滞在した研究者を招待し、第 2 回ジュニアフォーラムをドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会（German JSPS Club）と共催で開催した。

小平ボンセンター長の挨拶、オーストリア科学アカデミー(Austrian Academy of Sciences)の Prof. Dr. Widmann、ウィーン工科大学の Dr. Mach 両名による研究者としてのキャリアパスの紹介に続いて、JSPS フェローシップ経験者がそれぞれに、日本の大学におけるそれぞれの研究活動の様子や日常生活等の体験談を発表した。また西崎副センター長からの JSPS 助成プログラム等の紹介、ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会の案内も行われ、今後のキャリアパスやネットワーク促進に向けて、参加者による活発な意見交換が行われた。

プログラム詳細はこちら「ジュニアフォーラム」

2014 年サマープログラム参加者の発表

ジュニアフォーラム　参加者

今後のイベント

2015 年

1 月 14 日（水）～16 日（金）	第 11 回日独学術コロキウム （ゲッティンゲン）
4 月 30 日（木）	JSPS サマープログラム事前オリエンテーション （ボン）
5 月 8 日（金）～9 日（土）	第 20 回日独学術シンポジウム （ポツダム）
9 月 2 日（水）	年次活動報告会 JSPS Abend （ボン）
10 月 31 日（土）	ジュニアフォーラム （ボン）
11 月 5 日（木）	渡日プログラム説明会 （デュッセルドルフ）
12 月 9 日（水）～10 日（金）	第 12 回日独学術コロキウム（キール）

センター長コラム

「住んでみたドイツ8勝2敗で日本の勝ち」という本が出た時に読んでみて、「異質の文化・社会を同一の物差しで計って勝ち負けを論じて良いものだろうか」と大いに疑問に思った。そしたら「住んでみたヨーロッパ9勝1敗で日本の勝ち」という本も出て、始めから結論のある「日本の勝ち」シリーズだと分かった。それも「住んでみた」とのお墨付きで、「ヨーロッパを理解している人が、日本人の視点で書いているのがとても新鮮」と正直な読者の感想にある。現在のヨーロッパを深く体験している著者が、「日本人の視点」それも「日本の勝ち」の視点から10の項目を拾って、勝ち負けを判定している。端的に言えば、「混迷・退嬰の西欧、秩序・進取の日本」という構図である。広告では「ヨーロッパへの憧れがなくなり感謝！！」という読後感の紹介もあり、本シリーズが「非常に広く読まれている」と謳われていて、優越感に浸りたいコンプレックス症状が蔓延しているのではないかとさえ思われる。

「日本人の視点」という物差しの当て方や取り上げる項目は著者の自由だが、こうした著書が出回る素地が今の日本社会に有る点は見逃せない。短絡的に「日本は優れた住み良い国だ」「他国に学ぶことはない」と感じたい読者に媚びてはいないか。これが次世代を担う日本の若い世代の共通の感覚になることを、私は危惧する。謙虚に異質の文化を理解し学ぼうとはせずに、優等生気分に浸ったりはしないか。

画一尺度で点数をつけて勝ち負けを言うこのシリーズの広告を見ていて、今の日本の幾つもの大学がランキングを競って、宣伝合戦を繰り広げているのを想起せずには居られなかった。

（小平　桂一）

センターからのご案内

日本語研究者ネットワーク（JR-Net）の紹介

当センターHP では、ドイツ語圏で自主的に立ち上げ運用されている日本語研究者ネットワークを紹介しています。詳細はこちらをご参照ください。http://www.jsps-bonn.de/nihongo/jsps-ni-tsuite/

センターの紹介

当センターは、ボン中央駅から南に約 6km の場所に位置しており、ドイツの学術関連機関が多く集まる、学術センターの一画にオフィスを構えています。市街地から少し離れた静かな環境ですが、パートナー機関とは徒歩圏内という好立地を生かして、アクティブに活動をしております。また、近くを流れるライン川のほとりは緑も多く、四季の移ろいを身近に感じることができます。

センターへの交通案内はこちらをご覧ください。
http://www.jsps-bonn.de/nihongo/kotsu-akusesu/

ボン研究連絡センターメンバー 2014 年 11 月撮影

ドイツのクリスマス

ドイツの 12 月はクリスマスで大変盛り上がります。町の広場にはクリスマスマーケットが立ち並び、温かいグリューワインを楽しみに人々が集まります。

そしてマイスターの伝統が息づいているからでしょうか。皆、手づくりの腕をふるいます。オーナメント、伝統的なお菓子、キャンドルの飾りなどを丹念に作り、時には大切な人へプレゼントします。心のこもった品々は、私たちに普段見過ごしがちな温もりを思い出させてくれるようです。（中沢国際協力員）

日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Wissenschaftszentrum
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn（事務所住所）
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn（郵便物用）
Tel. +49(0)228-375050
Fax +49(0)228-957777
www.jsps-bonn.de